

令和7年度 学校評価結果及び保護者アンケート結果

1 集約結果

(1) 対象 : ①本校保護者(家庭数)200名 ②本校対象職員110名 ※今年度より施設入所者は個別に家庭数に含む。 (2) 期間 : ①本校保護者対象 令和7年12月1日(月)～19日(金) ②本校職員対象 令和7年12月1日(月)～19日(金) (3) 調査方法: ①本校保護者 評価項目を抽出したoffice365 Formsのアンケート機能またはアンケート用紙による回答。 ②本校職員 office365 Formsのアンケート機能による電子入力回答。 いずれも、“できている(4)” “ほぼできている(3)” “あまりできていない(1)”の四件法により実施した。 (4) 評価基準: “できている(4)”と“ほぼできている(3)”の占める割合が80%以上はA 80%未満60%以上はB 60%未満はCとした。				職員自己評価				保護者結果			
				5年度	6年度	令和7年度		5年度	6年度	令和7年度	
				109	102	94		133	66	90	
				100%	94%	85%		73%	35%	44%	
	評価項目	NO	実践目標(及び成果)	評価	評価	評価	A+B割合	評価	評価	評価	A+B割合
I 学校経営	ア 家庭や地域との連携	1	保護者や地域住民が参画しやすい学校行事やPTA行事となるよう工夫する。	A	A	A	87.2%				
		2	家庭や地域の意見や要望を反映するなど、連携・協力して取り組む。(教職員) 学校行事やPTA行事に、家庭や地域と連携・協力して取り組む。(保護者)	A	A	A	90.4%	A	B	A	85.6%
		3	学校ホームページや学校ブログを活用して、家庭や地域に最新情報を発信する。	A	A	A	95.7%	B	B	A	84.5%
	イ 知肢併置校としての整備推進	4	知肢併置校としての教育内容や教育環境についての協議や研修を行う。	B	B	B	73.4%				
		5	県・市教委、友生支援学校やあじさい学園などの諸学校と連携し課題に取り組む。	B	B	A	88.3%				
	ウ 進路指導体制の充実	6	卒業後の自立と社会参加をめざし、関係機関と連携して進路指導を行う。	A	A	A	99.0%	A	A	A	83.3%
		7	将来像を見据え、教員や保護者の進路意識を高める研修会を行う。	A	A	A	83.0%	B	A	A	80.0%
	エ 実践的指導力と専門性の向上	8	教育愛と使命感を持ち、特別支援教育の専門性を高める研修を行う。	A	A	A	91.5%				
		9	一人一人の目標と手立てを踏まえた指導案を作成し、授業力を向上させる。	A	A	A	88.3%				
	オ 危機管理体制の充実	10	障害の重度・重複化、多様化に対応して安全点検を行い、学習環境の改善を図る。	A	A	B	74.5%				
		11	危機管理マニュアルを活用し、状況に応じた行動ができるよう避難学習を実施する。	A	A	A	94.7%	A	A	A	90.0%
		個人情報の保護	12	児童生徒の個人情報(名前や写真など)を適切に管理している。	A	A	A	95.8%			
II 教育課程	カ 一貫教育の推進	13	小・中・高で児童生徒及び指導支援の情報を共有し、連続した指導を行う。	A	A	B	72.3%	B	B	A	84.4%
	キ 個別的教育支援計画の活用	14	児童生徒の将来像や伸ばしたい点など、一人一人の教育的ニーズに基づいて目標を設定し、地域資源を活用するなど適切な支援を実現する。	A	A	A	83.0%	A	A	A	84.5%
	ク 個別の指導計画による指導の充実	15	個別的教育支援計画を踏まえて実態に応じた具体的な目標と手立てを定め、適切な指導や評価を行う。	A	A	A	93.7%	A	A	A	88.9%
	ケ 指導方法や指導体制の工夫	16	各教科等における個別の目標に基づき、興味・関心、得意分野を生かすなど指導の手立てを工夫する。	A	A	A	90.4%				
		17	個別の目標や指導の手立てを共通理解し、指導者間の役割分担とチームワークで授業の充実を図る。	A	A	A	87.3%				
	コ ICTの効果的な活用	18	ICT機器を効果的に活用することで個々の児童生徒に応じたきめ細かな指導・支援を行い、学習活動の充実を図る。	A	A	A	88.3%	B	A	A	88.9%
	サ 体験活動	19	教科等の学習と体験活動を関連づけることで意欲を引き出し学習効果を高める。	A	A	A	91.5%	A	A	A	91.1%
20		家庭生活や地域生活に結びついた体験活動で自立と社会参加への意欲と態度を養う。	A	A	A	83.0%	A	A	A	88.8%	
シ 集団活動	21	豊かな人間関係を育むために、年齢や障害の違いを超えたより活発な集団活動を計画する。	A	A	A	86.2%	A	A	A	85.5%	
III 課題教育	ス 人権教育の推進	22	児童生徒が社会で生き生きと暮らせるよう、命の大切さや思いやりの心、コミュニケーションの力、ルールやマナー等を理解したり守ったりする力を育成している。	A	A	A	90.4%	A	A	A	90.0%
	セ 人権意識の向上	23	人権に配慮した指導(言葉遣いなど)やいじめ早期発見のチェックリストを定期的実施する。いじめを許さない学校をテーマとして、人権を意識した研修に取り組む。	A	A	A	90.5%				
	ソ 居住校交流及び学校間交流の推進	24	年間計画を立てて育てたい力を明確にし、児童生徒同士の充実した活動になるようしっかり打ち合わせを行って実施する。	A	A	A	87.3%				
	タ 地域との交流	25	はーとわーくす展、交流鑑賞会等の参加を地域や近隣校に呼びかけ、継続的な交流で地域への啓発を図る。(教職員) 交流活動や作品などの交流を通して、共に尊重し合いながら協働して生活していく意識や態度の育成を図っている。(保護者)	A	A	A	94.6%	A	A	A	90.0%
	チ 食育の推進	26	教育活動全体において食育を推進し、食への関心を高め、家庭と連携して望ましい食習慣の確立を図る。	A	A	A	88.3%	A	A	A	88.9%
	ツ 校外支援の取組	27	地域の学校や保護者のニーズを把握し、教育相談や講師派遣、就学相談、進路相談等、地域のセンター的機能の充実を図る。	A	A	A	89.4%				
28		地域自立支援協議会等の関係機関と連携して講演会や進路セミナーを開催し、地域への理解啓発を推進する。	A	A	A	86.2%					
IV 感染症対策	テ 健康管理	29	児童生徒の体調の変化等の観察を行い、感染症等に関する情報収集に努め、学校医、学校薬剤師等と連携しながら予防対策を徹底する。(教職員) 児童生徒の体調の変化等の観察に努めるとともに、感染症予防対策を徹底する。(保護者)	A	A	A	94.7%	A	A	A	93.3%

R6との比較

+5以上
+5未満
-5未満
-5以上

2 保護者アンケート自由記述

- 先生方はとても子供達の事をよく見てくださっていると思います。大変な思いをさせている事もあると感じます。頭が下がる思いです。
- いつもありがとうございます。入学してから子供もたくさん成長してきています。毎日少しずつ将来を見据えた活動や指導をしていただき、ありがたいです。
- 中学部ですが、よく子供たちのことを見てくださっていてありがたいです。連絡ノートもその日の出来事を細かく書いてくださり助かります。
- お世話になり、ありがとうございます。これからもよろしく願っています。
- 連絡帳をどの先生が記入しているのか名前の頭文字でもいいのでどこかに記載してほしいです。
- 楽メのスクールバスの機能が上手くいっていないので早急に解決して欲しいです。
- 色々な生徒さんが居る中で、先生の負担が大きすぎると感じた。
インスタの更新頻度が少なすぎる。
- いつも先生方には子供に対して親身になって接していただき本当に感謝しております。私自身は先生方に不満は一切ありませんが、他の保護者さんからは「寄り添ってもらえない」「適切な支援がしてもらえない」「相談しても却下される」等の話を聞くたび個人差がありすぎるのかなと気になりました。全員平等は難しいかもしれませんが、保護者の話を聞き寄り添う姿勢を見せていただけたら嬉しいです。
- できていない＝わからない と言う回答と受け取ってください。
- アンケート項目にわからないという選択も入れてほしい

3 評価結果をふまえた今後の改善方策

I 学校経営について

【家庭や地域との連携】

オープンスクールや学校見学、授業参観等については、保護者・地域関係者からのニーズが高く、ホームページやインスタグラム(ブログ)を活用した情報発信により、一定の成果が見られる。
今後情報発信を継続するとともに、学校運営協議会の取組を通して、学校行事等への参画の機会を広げ、保護者や地域住民が学校運営に主体的に関われる体制づくりを進める。

【知肢併置校としての整備推進】

知肢併置校として、教育環境の整備には様々な制約がある中、教員の専門性向上を目的とした研修に継続して取り組んできた。
今後、肢体不自由の児童生徒の増加が見込まれることを踏まえ、担当者に限らず全教員を対象とした研修を計画的に実施し、肢体不自由教育に関する専門性や共同学習の指導力の向上を図ることで、知肢併置校としての教育の一層の充実を目指す。

【進路指導体制の充実】

小学部から中学部、高等部へと段階的に積み上げることを意識し、発達段階に応じた連続性のあるキャリア教育を実践している。
早期から児童生徒一人一人の実態を踏まえ、卒業後の生活を見据えた指導・支援を行い、生活する力の育成に努めている。
近年、多様化する進路観や複雑な家庭状況への対応により、教員の対応力や専門的知識が一層求められている。
今後も、進路指導部からの計画的な情報発信や研修を継続し、教職員全体の進路指導に関する力量向上と体制の充実を図る。

【危機管理体制の充実】

避難訓練については、実施方法を工夫・改善しながら取り組んできた。事後アンケートでは避難経路や支援体制、役割分担等についての多様な意見が寄せられており、それらを踏まえて見直しを行い、より実効性のある訓練となるよう改善を重ねていく。

II 教育課程について

【一貫教育の推進】【個別の教育支援計画の活用】

縦割り交流が定着し、児童生徒が楽しんで取り組み、生き生きとした表情が見られる。それが保護者の評価につながっていると思われる。
個別の指導計画や個別の教育支援計画については、教務部・支援部を中心に、わかりやすいマニュアルの作成を行ってきた。しかし、特別支援教育の経験が浅い教員にとっては、作成や活用に難しさを感じるという意見もある。より有効で分かりやすい記載となるようマニュアルの改善とその活用等のための研修や教員間・学部間での情報共有を進め、計画の質の向上と指導の一層の充実を図る。

【体験活動】【集団活動】

全体としては高い評価を維持している。今後は、地域と結び付いた体験活動を通して自立と社会参加への意欲を高めるとともに、協働的な集団活動を充実させ、社会的自立に必要な資質・能力の育成に一層取り組む。

III 課題教育について

【地域との交流】【校外支援の取り組み】

作品展や交流行事等、継続して実施しており、特に交流活動においては事前の打ち合わせを綿密に行い、適切な目標を設定し、発展した交流になるよう計画する。
地域のセンター校として継続して支援や研修会を実施し、実績を上げている。地域校園や保護者から、就学・進学・転学等に関する相談も多く寄せられている。今後は、これらの相談内容や支援実績を校内で共有するとともに、地域内での支援体制の格差が生じないように関係機関と連携し、計画的かつ継続的な地域支援に取り組む。